

令和2年度第2回矢巾町立学校運営協議会会議録

1 日 時 令和3年3月22日（月）午後6時30分～午後7時27分

2 場 所 矢巾町公民館 3階大研修室

3 出席者

（協議会委員）別紙委員名簿のとおり （欠席者）高橋公子・佐藤美佳・鎗 洋高 委員
（事務局員等）別紙名簿のとおり

4 内 容

○ 田中館学校教育課長

ただ今から令和2年度第2回矢巾町立学校運営協議会を開催いたします。
はじめに、矢巾町教育委員会 和田教育長からご挨拶を申し上げます。

○ 和田教育長

お忙しいなか、本日の運営協議会に参加いただきありがとうございます。去年の7月16日に矢巾町として学校運営協議会を立ち上げることができました。矢巾町全体での運営協議会というのが私の願いでした。それを何とか立ち上げたのですがコロナ禍のために思うような会議を開催することもできずにいました。でも学校毎の部会で様々な話し合いをし、工夫をして取り組んでいただきました。そして今日は久しぶりに皆様の顔を見ながら会議を持てることに對し有難いと感じております。

実は私はバーレーン日本人学校に39歳のときに赴任したのですが、向こうの修学旅行でヨルダンに行ったときにペトラという遺跡があり、そこでガイドさんが子どもたちに対し、このような話をしました。「みんな自分の手を見てごらん。どうして人間には右手、左手があると思う。」と言ったんですが、子どもたちは分からないんです。ガイドさんはこのように言いました。「片方の手は挨拶をするため。片方の手は誰かに何かをしてあげるための手です。」その話を聞いて私は感動しました。そして、遺跡に行くと子どもたちが私たち観光客に石を売るんです。その石を売ったお金で食料を買って家に帰る。恵んでくれとは言わないんです。この石を買ってくれと言うんです。私はその時、日本は本当に平和だなと思いました。でも平和でない国で子どもたちはこのように頑張っているんだと思いました。子どもたちには未来があります。その未来を何とか良い未来に、良い将来にするために頑張らなければいけないのは私たち大人ではないのかと、私はその時に思いました。それが今のコミュニティ・スクールの立ち上げに至っています。いま未来に生きる子どもたちのために、私たち大人が立ち上がって何ができるか、子どもたちのためにできることを大人が手を握り合って、そして子どもたちのために何かをしてあげる、そのために右手を、左手を、そしてスクラムを組んで頑張っていきたいと思っておりますので、本日もよろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 田中館学校教育課長

それでは3の協議事項に移りたいと思ひます。協議事項の進行に関しましては女鹿会長さんにお願ひしたいと思ひます。女鹿会長さん前のほうにお願ひいたします。

○ 女鹿会長

会長の女鹿と申します。よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めて参ります。協議事項の①各学校の令和3年度学校運営方針の承認についてとなっております。この会は規則によりまして、先日各部会ごとに運営方針について話し合っていたわけですが、この運営方針を協議会で承認いただく事となっておりますので、これから各学校から運営方針を報告いただきながら承認のほうを進めて行きたいと思っております。それでは時間も限られておりますので、全ての学校から報告をいただいた後に質疑応答を行いたいと思っておりますので、まず最初に徳田小学校さんからお願いいたします。

○ 徳田小学校長 小川 祐史

徳田小学校です、よろしくお願いいたします。本校の資料は学校経営計画（案）から4ページの令和3年度校務分掌図（案）までです。実際に内容の訂正を行った箇所は斜体で表記しています。大きく変えたところは、学校経営計画（案）の学校教育目標の、「よりよい未来に向かって、気づき、考え、行動できる子どもを育てる」と変えました。今までも行ってきたことですが、本校は今年度と来年度 JRC の研究推進校でもあるので、学校経営の柱の大きなところに据えて、学校計画全体で進めて行こうと思っております。心のほうも、学習のほうも、そして体のほうも、より良いものを目指すために自分で振り返って気づき、そしてどうしたら良いのか考え、自分なりに実行してゆくといったことができる子どもたちを増やしてゆきたいと考えております。そしてめざす学校像の「よりよい自分づくりに向かって主体的に学びあい、成長を実感できる学校」としました。子ども同士が学びあって、自分で自分の成長を感じあえれば良いなどの願いも込められております。それから、「保護者と地域が連携し」という言葉が多かったですが、この学校運営協議会のこともあったことから、「協働し」と言葉を変えました。一緒に学校を運営してゆく共同体であるとのことから、こちらの「協働」を使いました。そして、信頼される学校づくりに進んで行きたいと考えております。5番の重点指導事項については、こまごまと書いてありますが、時代の要請とか、今年度行ってきてここに力を入れなければいけないと言うことを加えました。一番下の4 保護者・地域と協働し、信頼される学校づくりの(1)がコミュニティ・スクールへの移行と推進と挙げております。次のページはまなびフェストですが、今年度は特に「思いやりのある子」を特にテコ入れした部分でした。メディアの使い方とか、規範意識という部分で来年度も力を入れて行かなければいけないと思うとともに、保護者と連携して進めて行かなければいけない部分もあって、このように文言を返させていただきました。よろしくお願いいたします。

○ 女鹿会長

ありがとうございます。続きまして煙山小学校お願いいたします。

○ 煙山小学校長 小笠原 安和

令和3年度の経営方針ですが、小学校ですので知・徳・体バランスよい力を育成することが大前提となります。令和3年度の重点的な取組みについては、一つ目の徳育についての主な改善点は、コロナ禍において、ますます子どもたちの学校における居場所づくり、絆づくりというのが大事になってくる、力を入れなければいけないと考えています。そのなかでも学校の

中で一番長い時間、内容的にも一番長い時間を占めるのが授業です。その授業の中で、教科内容を理解、定着させること、さらにそれに加えて生徒指導の三機能を生かした積極的な指導を行うことに力を入れて行きたいと思っています。同時に、学校の中で行われる様々な特別活動、行事、児童会、クラブ活動、学級活動、そして本校では縦割り活動を日常的に取り入れていますので、そのような部分で子どもたちの主体性、社会性を来年度更に意識して取り組んで行きたいと考えています。二つ目の知育の部分ですが、来年度大きく変わる部分はタブレットを日常の教科学習等に活かすことが必須になってくると考えています。教職員が一体どんな場面で、どの様な活用をすればいいのか、あるいはしないほうが良いのかといったことを、しっかり意識して、選択して教育活動に取り入れることが大事になってくる。そのためにもしっかり教職員に任せるのではなく、学校体制として効果的な活用についての実践例を積み重ねて行く事が大切であると考えております。したがって、来年度、本校の教職員の研修、研究課題をICTの活用ということで進めて行きたいと考えております。同時に岩手の授業づくりの3つの視点を常に意識した教科授業を進めてまいります。三つ目の徳育についてですが、今年度の運動能力調査の結果を見ても思わしくなかった。本校はもともと調査結果は思わしくなかったのですが、今年度更に低下がみられるということで、運動の日常化という部分、更に力を入れて行きたいと考えています。特別支援教育の部分ですが、個別の配慮が必要な子どもの増加、あとは通常学級における支援の在り方等、今度特別支援教育に関わって指導教諭が配置になるので、指導教諭を中心に特別支援教育の更なる充実を図って行きたいと思っております。最後に関係機関との連携の推進につきましては、すでに今年度から始めていますが、子どもたちが日常過ごす学校以外の場と言うことで、児童館そして放課後デイサービス等あるわけですが、そのような関係機関との定期的な情報交換会を位置付け、更に連携を図ってまいりたいと考えております。

○ 女鹿会長

ありがとうございます。それでは続けて不動小学校お願いします。

○ 不動小学校長 吉岡 裕晃

令和3年度の学校経営についてですが、学校経営目標についてはここに挙げているとおりです。「目指す学校の姿」、「目指す児童の姿」と挙げておりますが、この大きく書いておりますが、子どもたちが「元気に登校して、笑顔で下校する」を一つの指標にし、これを目指して学校教育を進めてまいりたいと思っております。11ページの学校経営の方針はここに挙げているとおりです。具体的に今年度の経営の重点と言うことで、不動小学校でも知・徳・体と3つにつきまして具体的に重点を設けております。1つ目は確かな学力を育てる学習指導の充実で(1)から(5)まで挙げています。(1)につきましては授業づくり、それから、きめ細かな指導に工夫をしてゆきたいと思っております。(2)の基本的な学習規律と自主的な学習習慣を身に付けさせる。という項目になりますが、家庭学習お授業と関連付けて、しっかり習慣化させていく取り組みに重点を置いてゆきたいと思っております。(3)の読書活動については、児童の評価、保護者の皆様の評価、そして教員の評価といったように三者とも頑張らなければならないといった評価と認識しております。(4)については、教職員の研修です。②のアからエに書いてありますが、特にも特別支援教育を特別支援教育研修の一層の充実を図りながら、子どもたちの理解、ユニバーサルデザイン等を取り入れた授業づくりを目指してまいります。(5)については生徒指導の三機能

を生かした授業の推進を図るということで、自己存在感、共感的人間関係というような共通理解を図ってまいります。2番の豊かな心を育てる教育の充実、特に(3)いじめの防止と早期発見に努め、いじめのない学校をめざすということで、子どもたちを見守りながら、見逃しをしないように努めてまいります。それから3番の健康安全指導の充実に入ります。煙山小学校さんからもありましたが、今年度コロナの関係か体力について非常に落ち込みが見られる部分がありましたので、健康教育、体育指導の充実ということで重点を置いて取り組みます。(5)ですが、新型コロナウイルスについて特に差別・偏見を生まない人権教育に結びつけて進めてまいりたいと思います。次にローマ数字の4の開かれた学校づくりと地域連携の推進ですが、昨年度までは本年度の経営の重点のなかで、ぽつ印での項になっておりましたが、大きな項にしました。このようにして今後、地域、そして保護者と協議しながら進めてまいりたいと思います。

○ 女鹿会長

ありがとうございます。それでは次に矢巾東小学校お願いします。

○ 矢巾東小学校長 小山田 孝

矢巾東小学校です。よろしくお願いいたします。おもに14ページを中心に説明させていただきます。まず学校教育目標ですが、まず学校が存在している理由としては学校教育目標の具現化だと思っておりますので、それをコミュニティ・スクール発足を受けまして学校独自ではなく、保護者の方はもちろん、地域の方々と手を携えていかに学校教育目標を具現化してゆくのかと言うのが一番の課題であると思っております。本校も知・徳・体それぞれバランスよく育成してゆきたいということは他の学校さんと同じです。そして知・徳・体それぞれに具現化、細分化したものが目指す子どもの姿と言うこととなります。経営の方針についてはこの通りです。目標達成・問題解決に向かう学校でありたいと強く願っております。次に経営の重点に入りますが、その中の4番をご覧ください。コミュニティ・スクール体制整備ということで、これは引き続き来年度もやっていかなければいけないと考えております。学校運営協議会の組織化と学校経営方針の承認、本日その様な形になるわけです。次のポツですが、「まなびフェスト」による教育理念の共有化と書いておりますが、コミュニティ・スクールの推進してゆくうえで、私のなかで一番大切にしたいと思っております。学校・保護者・地域そして子どもを含めてですが、教育理念をいかに共有化するかが非常に大切であると思っております。つまり、矢巾東小学校ではどんな子どもを育てたいのか、子どもたちにどんな子どもになってほしいのか、これを学校の中にとじるのではなくて、保護者の方々、地域の方々にわかっていただく事が、わかりやすい言葉でみなさんと共有化してゆきたいと思っております。その一番のツールとして「まなびフェスト」を経営方針の中核に据えてゆきたいと考えております。そこで申し上げた知・徳・体それぞれの「まなびフェスト」について簡単に説明させていただきます。上のほうに戻っていただいて1番の「かしこい子」の育成に向けてということで、来年度「まなびフェスト」を目当てをもってまなびあう子と設定しました。これは今年度の課題を振り返った時に、本校の子どもたちの課題として、主体性、積極性が足りないのではないかということが話し合われました。それは、子どもたち一人一人が「自分がこうありたい、こうしたい」という目当てを持つこと、そして、それを一人でがんばるのではなくて、みんなと一緒に学びあうことで達成していく子、これが必要ではないかと結論付け、このような「まなびフェスト」

となりました。当然これに向けて授業改善、授業をいかに充実させてゆくのかと同時に、子どもたちが何を学ばば良いのか、どうしてゆくことがこの目標に近づくのかと言うことを学校で示していくこと。さらに、今回はまだ未完成の部分があってもってきてませんでした。まなびフェスト作成表というものを現在作成中ですが、その中で保護者の方々に何を教育していただくか、地域の方にも協力していただく事はないのかといった内容の作成表を今作っているところです。その中心になるのがこの「まなびフェスト」ということになります。2番の「心豊かな子」の育成に向けては、誰にでも温かいあいさつや態度で接する子とし、本校のあいさつについては、例年良くはなっているのですが、ただ今年度は全員マスクを着けているので、自分ではあいさつをしたつもりでも相手に届いていないのではないかとということもありまして、ここを学校の中にとどまらず、地域の方、保護者の方を含めて誰にでも温かいあいさつや態度で接する子、ということであいさつはもちろん、態度も育成してゆきたいと考えているところです。3番の「たくましい子」の育成に向けては、自分の体を守る子としました。これはもちろん健康管理という部分があるわけですが、特に今年度新型コロナウイルス感染症がなかなか終息に向かわないということで、来年度も当然それを見越してゆかなければいけない。そういった予防をしていくことはもちろん、日々の健康増進を目指してゆくことで自分の体を自分で守れる子にしてゆきたいと考えております。5番以降はその通りなのですが、本校特有の課題としては5番一つ目のポツの、交通環境変化による交通事故防止の徹底は是非とも進めて行かなければいけないと思います。医大附属病院の開院、対がん協会の移転によりますます交通量が増えて行くことに対して、予防、防止を考えて行かなければならないと考えております。そして働き方改革につきましてもキーワードといたしましては効率的であり、効果的な教育活動を目指してゆく必要があると思っております。最後になりますが児童、教職員ともに、まなびのある学校ということで、まなびと言うのはなりたい自分を持つことと定義しております。そういったことを子どものみならず、先生方も持てる学校でありたいと、そして自分がどのように変わったかを自覚できる学校でありたいと考えております。次の15ページにつきましては、構造化した図になりますが、今お話ししてきたことを支えるものとして中段少し下になりますが、本校では「矢巾東小学校ベーシック」としまして、全ての子が身に付ける態度として、以下の3つの聞き方、話し方、時間を守ろうとする意識を常に呼び掛けて行きたいと考えております。それを話題にしながら先ほどの「まなびフェスト」に向かわせたいと考えています。

○ 女鹿会長

ありがとうございます。それでは次に矢巾中学校お願いします。

○ 矢巾中学校長 福士 幸雄

16ページ1枚ものになります。左側の箱になります上から指標、経営の基本理念、その下の本年度の経営キーワードの説明と、その下になります本年度学校経営の重点の部分の説明をいたします。まず一つ目の☆の個を高め、集団を高める。その逆もまた真なりということが書いてあります。これは分かりやすく言うと、リーダーの育成をすることがフォロワーという、それ以外の多くの子どもたちを育てることになると。フォロワーの育成をすることがリーダーを育てることとなるという信念のもとに経営してゆきたいということです。二つ目の☆については、学校教育活動と言うのはやはり子どもたち、あるいは保護者、地域との信頼関係がなければ何をやってもうまく回らない。ですから、信頼関係の構築のために大事にしたいこと、それが傾聴であり、共感

的受容、そして子どもたちの心に寄り添う、生徒のよさや可能性をしっかりとらえながら子どもたちの信頼関係、あるいは保護者、地域との信頼関係を築くということです。☆マークの三つ目は、命・人権、あるいは感謝・謙虚、自己肯定感、自己有用感というのは、本校にとっても、岩手県、あるいは日本にとっても子どもたちの課題ですので、本校にとってもこのところを大事にしたいところで、自己肯定感、自己有用感を是非育みたいと考えております。☆マーク四つ目は先輩方から何十年も脈々と受け継がれてきている四大文化「挨拶・掃除・応援・合唱」これは継承し発展させるべきものですから、先輩から受け継がれるものを大事にして、さらに発展させてゆきたいということで書きました。その下、本年度の重点ですが、先ほど言いましたが人権と命ということで、危機管理はもちろんですが、本校では令和3年度からPTAの役員さんの承認はいただいておりますが、PTA総会で承認をいただくところまで来ていますが、不測の事態に備えて子どもたちが地震あるいは台風による洪水で道路が寸断されて保護者が迎えに来れない、家に帰れないことを想定して、子どもたちの食糧、水等を備蓄することを進めます。そして多様性と言う観点から、制服については令和3年度から女子の制服をスカートのみならず、スラックスも選択できるということで、これは在校生にも話をしています。それから、今後の課題ですが、リボン、ネクタイについても今後どうするか検討中です。というように人権、多様性への対応、命を守る観点から具体的にその様な取り組みをしたいということです。②番は評価改善の側面からの授業改善と言うことで、自分の指導を教師がきちんと振り返って直してゆくことと、子どもがいまどのような状況にあるのかということ、きちんと把握しながら授業を進めていくということから評価改善という言葉を使っています。それによって学力補償を図って行くということです。それから④番ですが、復興教育は岩手県内すべての学校で取り組むということになっています。その中の一環として本校3年生の修学旅行は4月から9月に移しました。3年生日帰りですが陸前高田のメモリアル会館を見て、レッドカーペットという取り組みを陸前高田で行っていき、藪椿をある一定の区画に植樹するということを行っています。その取り組みを行ってきます。既にそのための事前学習を、陸前高田から講師を呼んでお話を聞いたりしている状況です。それから⑤番の情報モラルですが、さまざまなSNSへの対応、携帯、スマホの使い方、ゲームに対する指導が難しい局面が結構ありますので、生徒への様々な研修、勉強の機会は必要ですが、保護者への勉強の機会を設けたいと思います。もうすでに新入生説明会、新1年生の保護者あてには新入生説明会が終わった後、15分間この対応について具体的に保護者のほうへお願いしている状況です。その斜め下にある家庭・地域ということで、きょうのこの会議に直結する部分ですけど、コミュニティ・スクールということですから、今まで以上に連携を図ってゆくということで、特にまなびフェストについては先ほどから各学校の校長先生方もおっしゃっていますが、まなびフェストをしっかりと示して、その結果がどうなったのかを学校評価の中でしっかり情報公開し、情報共有する、そして新たな課題をみんなで見ながらその課題を解決してゆくということをさらに推進してゆきたいと考えています。以上、私のほうからの説明といたします。

○ 女鹿会長

ありがとうございます。最後に矢巾北中学校お願いします。

○ 矢巾北中学校長 山下 彰

矢巾北中学校ですが17ページから19ページまでをまとめたのが20ページですので、20ページ

を中心に説明いたします。本校は創設当時から友愛・躍動・創造を掲げており、それに基づいて学校経営を行ってゆきたいと考えています。昨年度まで自立と共生という言葉をお大切にしてきたわけですが、ちょっと文言を加えまして次の時代を見据えるということで、現在、AI等様々なものが進化している時代ですし、この子どもたちが生活する世の中と言うのは全く違うものになるのではないかと、でもその様な社会にも対応できる子どもを育てたいと思う意味で、時代を見据えるということで、そういうことも頭に入れながら教育を進めなければいけないと考えています。その下の「未来を創る自立と共生」自分の力で、共に助け合うということをお今年の重点としたいと考えています。「未来を創る自立と共生」のために3つの柱を立てました。まず基礎となる部分はやはり心と体だということで(1)から(3)までとしました。(1)は心と態度です(2)はいじめ・不適応・不登校、(3)は健やかな体の育成と言うように3つに分けて重点といたします。そして真ん中の所は学力向上を意識していて、「資質・能力」を高めようということで、生徒たちの学力向上のためには授業力向上が欠かせない、私たちが考えなければいけないということで、授業力向上させようということで職員には話しております。次に「めざす授業」ということで、子どもが笑顔になるような授業をしなければいけない、それから、先ほどらい出てきましたけれど、分かった、できたと実感ができる授業を組み立てようということを目指したいと思っております。(5)は特別支援教育も重要に考えていまして、やはり特別支援教育と言うのは丁寧な教育支援であるので、みんながその手法を身に付けて勉強しようと、そのことが他の子どもたちにもその影響が大になるんだということで考えています。それから意識の問題ですね。自分たちが守られている、やらなければいけないという意識、それから家庭と地域との協働ということで復興教育のプログラムの推進、そしてキャリア教育の充実を進めます。(7)はコミュニティ・スクールの推進を推進を図ろうということです。本校には「五つの合言葉」というものがあります。それを具体的に進めていこうということで、生徒会としてもその言葉を大事にしています。いずれ全職員で授業をやったということをお大事にして行きたいと考えています。以上です。

○ 女鹿会長

ありがとうございます。今全ての学校から今回の運営方針についてご報告をいただきました。非常に膨大な量であります、この中でまず皆さまからご意見とか質問を伺いたいと思うのですがいかがでしょうか。各学校それぞれ決めていただいたと思うのですが、他の部会の運営方針を見てご意見等を伺いたいと思うのですがいかがでしょうか。実際、各部会で事前に話し合っ
て決めていただいたと思うのですが、その内容を発表していただいてもよろしいのですが、
どうでしょう、委員さんとか校長先生方、何か特徴のあるご意見があれば伺いたいと思う
のですが。よろしいですか、各学校いろんなテーマがありまして、聞いていてやはり来年から特
徴的なものはICTとか、今年みなさん苦勞されましたコロナに対する対策、方針が見受けられ
るなど、あとはいじめ、命の問題、メディア、SNSといったところの意見も出ております。こ
れらをお加味いたしまして部会の中で、具体的なお話だとかご意見出たところをお再度聞かせて
いただければと思うのですがどうでしょう。よろしいでしょうか。無いようであれば協議会の方
で各校の運営方針について承認と言うことになりますので拍手で承認願います。

(委員の拍手あり)

はい、ありがとうございます。それでは協議事項の②番目にまいります。令和3年度矢巾町立学校
運営協議会の取り組みについてであります、これにつきましても各部会で話し合いしていただ

いたときに、今年度どのようなことに取り組んで行きたいのかと言うことを話し合っていたと思いますが、その意見をいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。各学校で何か必ず話題になっていることがあるんだろうなと思いますので、その様なところを伺えればと思うのですが。

○ 徳田小学校長 小川 祐史

徳田小学校は今年度、校長も副校長も入れ替わりました。地域の人分からない、地域に人の顔が分からないような状態で、またコロナの影響もあって足踏みしたままの1年間だったなと思います。ですから来年度はコロナの対策も講じながら地域の人たち、つまり学校運営協議会として一緒に活動してくださる地域の皆様の応援を受けるために、せめて顔合わせはしたいと、そして、地域の方で子どもたちを協力し合いながら育ててゆきましようというスタートをしっかりと切りたいといった意見が出ておりましたので、それを実現したいと考えております。

○ 女鹿会長

はい、ありがとうございます。いま徳田小学校の校長先生からお話のありました地域との連携を進めてまいりたいと。今年はコロナ禍でどの学校も地域の連携に苦勞されたと思います。また校長先生がおっしゃったように、なかなか地域と学校また保護者もですけど、顔の見えない1年だったのかなと思っております。そのようなことも含めて令和3年度はこのようなところを連携して進めて行ければというご意見でした。他はどうでしょうか、同じようなご意見がでたところもあると思いますし、他にも何か別のお話でもよろしいのですが、いかがですか。

○ 矢巾北中学校長 山下 彰

せっかく ICT とか、いろんな電子機器が活用できるようになってきましたので、子どもたちの学習の様子を配信するとか、教室ではこんな様子でしたよとか、取り組み状況とかを発信できる環境が整ってきているのではないかとのお話をいただきましたし、不登校、不適應の子どもたちにもタブレットを介して学校の様子を知らせるとか、何かできるのではないのかとのご意見としていただきましたので、今後、本格的に使用するのは来年度以降となると思うのですが、どのつようなことができるのか、職員とも相談したいと考えております。

○ 女鹿会長

はいありがとうございます。ICTのお話もありますので、ネット環境だったり、どの様な活動、話し合いをしているのか等を公開しながら、また校長先生がおっしゃったように、学校での子どもたちの様子とかをネット環境を利用していろいろ何かやっていけたらよろしいのではないかとのご意見でした。他にはどうでしょうか。あとは私の手元のほうに、各学校で上げられた意見を伺っておりましたが、やはりどの学校でもあがっているのが SNS とか情報メディアに対する取り組みですね。なかなか学校単位で出来ることはやっているのですが、なかなか効果が出なかったりとか、悩んでいる部分も多いようですので、このような会で具体的なことやってはどうかとの意見も挙げられております。あとはやはり、地域の方々との連携ということで、ゲストティーチャーみたいなこととか、地域と学校をつなぐようなコーディネータの育成だったり、お願いしたりしてはどうかとの意見も上がっております。あとはそこに地域と連携した職場体験をしてはどうかとかのお話も

上がっております。どうでしょう、他に皆さんから何かありませんか。

○ 佐々木三夫委員

要望になるかもしれませんが、コロナ禍の中で各学校の学校経営が頑張られていることが分かりました。私たち委員が悩んでいるのは、学校運営協議会で熟議が大事だということでしたが、コロナ禍においてなかなか令和2年度は難しかったと思いますし、ただ令和3年度は何とかして熟議の機会を作っていただけるとありがたいですし、ある程度のスパンの中で我々委員がどのような役割を担い活動してゆけば良いのかとの悩みを持っていますので、そのようなところを皆さんと共有できれば良いのかなと思っていますので、今後検討いただければと思います。

○ 女鹿会長

貴重なご意見ありがとうございました。今年度はコロナの影響もあってまったくと言っていいほど集まる機会が少なく、このような議論をできませんでしたが、来年度はもっと皆さん集まって議論する機会が多くできればいいのかなと、そのあたりも含めて取り組みについて考えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。他にはいかがでしょう。それでは今出たご意見をまとめさせていただくと、やはり先ほど徳田小学校の校長先生から出た地域との連携と言うことがございました。そこでやはり、地域、学校、保護者をつなぐコーディネータさんとか、いろんな場面で特技を持っていらっしゃる方にゲストティーチャーをお願いするとかと言ったことを、部会ごとに地域と連携して模索していただくような取り組みをしていただければよろしいのかなと思います。あともう一つはやはり、どの学校も悩まれているゲームとかSNSの部分です。携帯電話については各学校でそれぞれ取り組まれている訳ですが、ゲームなどは幼少期から中学校から高校まで非常に大きな問題でありますので、協議会として取り組みだったり、講演会とかを保護者と連携してやっていければよろしいのかなと思います。この2本を柱にしながら、あとは北中学校の校長先生がおっしゃったように、それを皆さんに知っていただくことが非常に大事なかと、ここだけの話でおわってしまうと、周りの保護者や、地域の方々が何やってるんだと全く見えませんので、その情報をいかにして広く知っていただくかを視野に入れながら、次年度この協議会を運営していければよろしいのかなと、また、それを話し合ううえで先ほど佐々木様からお話いただいたように、いろいろ熟議する機会を事務局のほうにお願いして増やしていただければ、と言った形で令和3年度すすめていければと思いますが、皆さまいかがでしょう、このような形で進めていただくことでよろしいでしょうか。はい、それでは令和3年度はこのような形で進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。はい、協議事項については以上ですけれども、皆様の方から何かご意見とかございますか。よろしいでしょうか。事務局の方でも令和3年度の協議会の開催回数等の補足ありますでしょうか。

○ 学校教育課長 田中 館 和昭

私のほうから、②の協議事項の中でご意見をいただきましたが、やはり先ほど佐々木委員からお話のありましたが、コミュニティ・スクールはやはり熟議が大切だと思っています。昨年開催した第1回の会議でもしばしば出た言葉ですが、今年度はなかなか会議開催が出来なかったわけですが、先ほど②で出ました地域との連携の部分、それから情報メディア関係、情報発信を含めて皆様と一緒に考え、熟議して令和3年度は議論を深めていきたいと考えております。前に皆様にお渡し

した資料の中で、「熟議とは多くの当事者による熟慮と議論を重ねながら、課題解決を目指す会話」との説明がありますので、是非このとおりに進めてまいりたいと考えております。それで来年度は、集まる回数、全体会になるか、部会になるかは別としまして、できれば集まる回数も増やしたいなと思っております。今回、全体会は2回、部会は1回だったわけですが、できれば部会の部分を増やしていきたいと思っております。先ほどお話のあった来年度取り組む内容は、各部会でこのような方法があるのではないかと意見をだしていただき、全体会でまとめておこなうとかといった方法を今考えておりますので、あらためて熟議の進め方に関して皆様にお知らせしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○ 女鹿会長

はい、ありがとうございます。それでは次年度も皆様よろしくお願いいたします。これで協議事項のほう終了させていただきます。活発な討議ありがとうございました。では進行のほう事務局にお返しいたします。どうもありがとうございました。

○ 学校教育課長 田中 和昭

女鹿会長さんありがとうございました。それでは次第に沿いまして4番のその他に移りたいとおもいますが、みなさまから何かございますか。よろしいでしょうか。事務局からもその他の部分はありませんので、先ほどお話ししましたとおりに来年度はもっと議論を重ねれるよう、事務局としても工夫してまいりたいと思っております。

それでは令和2年度第2回矢巾町立学校運営協議会を終了させていただきます。本日は本当にありがとうございました。

【午後7時27分 閉会】